



学校だより



令和7年4月30日
5月号
調布市立第一小学校
校長 樋川 宣登志

<http://www.chofu-schools.jp/chofu-1sho> TEL042(481)7636

温かい校風につつまれて

副校長 山崎 清香

新緑が目には鮮やかな季節となりました。早いもので、入学・進級して約1か月がたち、子どもたちは元気に学校生活を送っています。

さて、昨年度末、現2年生の保護者の方から、お礼を兼ねてのメールをいただきました。

我が子は、学校に中々慣れず、毎朝泣きながら通学していました。無理やり引っ張って家から出し送りましたが、靴箱前でも号泣、ストレスで腹痛をおこすほどでした。もう親の私たちも心が折れかけていて、毎朝困り果てていました。そんな時、助けてくれたのが6年生の子供達です。靴箱前で泣いて固まって動かない息子に、「教室まで一緒にいこう」「手をつないでいってあげるよ」と優しく声をかけてくれました。その言葉で、少しずつ、6年生と一緒にいたら教室まで行けることが増えていきました。号泣している1年生の扱いは大変だったと思います。

よく声をかけてくれる6年生に「毎朝泣いている教室まで連れて行ってくれてありがとう」とお話しました。その子は、「自分も1年生の時、泣きながら学校へ行っていたから気持ちが分かるんです。その時6年生が助けてくれたので、今度は私が不安に思ってる子を助けてあげたいんです」と答えてくれました。その優しい気持ちに涙がでるほど、私は感動しました。我が子の手を引き、教室まで行けるように支えてくれた6年生には感謝の気持ちでいっぱいです。

(許可を得て一部、載せさせていただきました。)

「道を作ること」と「校風」をつくることはとても似ていると言われます。町中の道を作るということではなく、まだ誰も入ったことのない山の中や、一面の草原に道を作るイメ

ージです。まず、誰か一人が目的地を目指して歩き始めます。そうすると、草を踏み潰した跡ができます。しかし、そのまま放っておくと、また元の草だらけの状態に戻ってしまいます。そうなる前に、次の人が、前の人歩いた場所を同じように歩きます。そして次の人も次の人も、同じように歩いて行きます。気が付くとそこには草はなく道ができています。

学校の校風づくりも同じです。

どの時代も、子どもたちは、上級生の背中を見て学び、「ああなりたい。」「カッコいい。」「真似したい。」と憧れをもちます。そして、自分たちが最上級生になったとき「次は私たちの番。」と張り切ります。

現在、6年生も1年生が入学して以来、温かい声かけをしながら、朝の支度のお手伝いなどを行っています。卒業生からしっかりバトンを受け継ぎ、卒業生が踏み固めてくれた道を元に、自分たちが先頭になり第一小のリーダーとして歩んでいます。

現在の6年生は、1年生のとき、新型コロナウイルスの影響により入学式より登校できなかった＝6年生のサポートを受けなかった期間があります。それでも現6年生は、今までの最上級生をよく見習い、優しく1年生に接し、行動しています。

今年度も、頼もしい上級生の姿が、下級生の心の憧れとして届き、より温かい校風を生み出す1年となっていくことを期待しながら見守り続けていきます。